



女の子はみな、  
ひとりぼっちなのね。

# (だれも私を愛さない!)

1994年ロカルノ映画祭特別賞受賞 1994年大阪ヨーロッパ映画祭出品 1995年セザール賞作品賞ノミネート

主演 ベルナデット・ラフォン ビュル・オジェ リオ ミシェル・ラロク ジャン=ピエール・レオー

監督/脚本 マリオン・ヴェルヌー 撮影監督 エリック・ゴータイエ 音楽 アルノー

挿入歌/BOOGIE WOOGIE INTO TOWN LES FILLES DU BORD DE MER (ARNO IDIOTS SAVANTS)

1993年/フランス/35ミリ/カラー/95分/ヨーロッパヒスタ 配給 シネカノン

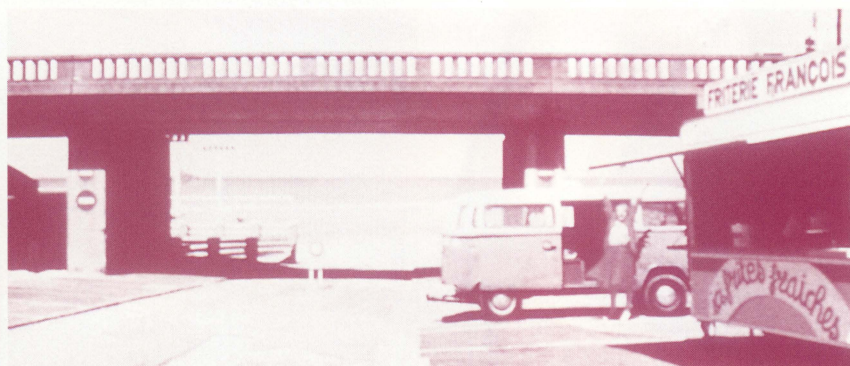


BERNADETTE LAFONT BULLE OGIER LIO MICHELE LAROQUE MAAIKE JANSEN AVEC LA PARTICIPATION DE JEAN-PIERRE LEAUD ANDRE MARCON

# PERSONNE NE M'AIME



# 『男が女のありのままの姿を愛すなんて、誰も教えてくれなかったわ』



だれもが持っている  
日常のわだかまりが晴れたとき——  
素敵なのはきっとある  
夫と愛人、あらゆる女性と  
忘れられた人々へ……

決して出会うはずのなかった4人の女性。彼女たちの一人が、浮気した夫の居場所を突き止めようと一台のキャンピングカーに乗り込んだことから、4人の奇妙な冒険が始まる。アニーとフランソワーズは姉妹でありながら全くの他人のようだ。唯一の共通点といえば、落ち込み易いところ、そして男に仕返ししようとするところ。この二人に共感したホテルのオーナーであるクリクリと掃除婦のディーズが加わり、4人はフランスの片田舎を旅しながら、パニックの種を撒き散らしてゆく。夫の浮気現場に向かう妻、娘と絶交状態にある母、愛せる男がいない女。そんな女性たちの振る舞いと気質がなんともおかしくて、不思議と羨ましい。そんな『だれも私を愛さない!』は全編を通して、女性にしか生み出すことの出来ないフィーリングで満ちている。共に、世の母親、娘、そして何かを失い欠けようとしている者たちに贈る、希望と愛情に溢れたコメディである。

太陽の下の開放感に囲まれた、  
女性監督マリオン・ヴェルヌー  
27歳のデビュー作

監督はシャルロット・ゲンズブール、イヴァン・アタル主演『LOVE etc.』のフランス期待の新鋭マリオン・ヴェルヌー。同時に『天使が隣で眠る夜』の監督でも知られるジャック・オディアールのパートナーでもある。脚本を常に手掛ける彼女は、自らの感性和意志を色濃く反映させる。映画界で働く両親の、早すぎる引退に疑問を覚え、「モノを書くか」「映画を撮りたい」と願うようになる。そんな早熟な少女は、高校

を中退しパーで働いた金でアメリカへ渡り執筆活動に専念。そしてアルノー・デプレシャン監督作品でお馴染みのマリアヌ・ドニクール主演のTV映画の監督を経て、待望の劇場映画デビューを果たした。

家族から自立しようとする熱い想い、いつも身近に感じていた母親の視線、幼い頃から観てきたシネマ、そして俳優へのノスタルジーを彼女は今まで自分が感じてきた様々な要素と合わせ、本作を完成させた。

『だれも私を愛さない!』は、ストーンと抜ける自然の美しさ、色彩のコントラスト、そんな太陽の下の開放感に似た、心温まるまなざしで、観る者を包み込んでしまう映画なのだ。

ヌーヴェル・ヴァーグを彩った俳優と、  
現在のフランスを映し出す  
クリエイターとのアンサンブル

キャストにはC・シャブロルの『二重の鍵』、J = D・ヴァルクローズの『唇によだれ』のほか、特にF・トリュフォー『私のように美しい娘』で知られるベルナデット・ラフォン。『狂気のお』をはじめ「彼女たちの舞台」「パリでかくれんぼ」等、J・リヴェット作品には欠かせないビュル・オジェ。F・トリュフォーのアントワーヌ・ドワネル役を経て、あまりにも個性的な役者となったジャン＝ピエール・レオーと、ヌーヴェル・ヴァーグ世代きっての俳優が顔を揃えている。そして、アイドルからドラッグ・クイーンまで魅惑的な変化を遂げるフランス・ポップスのシンガー、リオが物語の真の主人公を演じている。撮影を担当したのはA・デプレシャン監督作品で記憶に新しいエリック・ゴージェ。『イルマ・ヴェップ』『ティコ・ムーン』など気鋭監督と幅広く活動してきた彼は、ここでも独特な色彩センスを発揮している。まさに、ヌーヴェル・ヴァーグを彩った俳優と、現在のフランスを映し出すクリエイターの共演と言える作品である。

日々の繰り返し返し。  
こんなこととしていて本当にしあわせ?  
どんな国に住む人でも『孤独』はみんな抱えています。  
でも、この映画に登場する4人+1の孤独な大人の女性がとった行動は、  
ある日思い立ち何かを起こしていくということ。  
『自分の強さの使い方』。  
解決の糸口が美しい色彩の映像からじわじわと伝わってくるはずです。  
『ネオ/ヌーヴェル・ヴァーグ』と呼びたい映画!

かの香織 (ミュージシャン)

だれも私を愛さない! PERSONNE NE M'AIME  
1993年/フランス/35ミリ/カラー/95分/ヨーロッパ  
©1994年ロカルノ映画祭特別賞受賞©1994年大阪ヨーロッパ映画祭出品©1995年セザール賞作品賞ノミネート  
◎監督/脚本/マリオン・ヴェルヌー Marion VERNOUX  
◎撮影監督/エリック・ゴージェ Eric GAUTIER ◎音楽/アルノー-ARNO ◎挿入歌/「BOOGIE WOOGIE INTO TOWN」"LES FILLES DU BORD DE MER" ("ARNO IDIOTS SAVANTS") ◎出演/ベルナデット・ラフォン Bernadette LAFONT ◎ビュル・オジェ Bulle OGIER ◎リオ LIO ◎ミシェル・ラロク Michele LAROQUE ◎ジャン＝ピエール・レオー Jean-Pierre LEAUD ◎配給/シネカノン◎

## 9.26satより1週間限定レイトショー!

●8:50pmより1回上映 (日曜休映)

料金: 一般1800円 学生1500円 シニア1000円 (当日券のみ)

シネマアルゴ 梅田

梅新・東映会館南となり 06-343-1691

